

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 学校法人君津学園 市原中央高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒290-0215

千葉県市原市土宇 1481-1

E-mail ichihara-chuo@kimigaku-ich.ed.jp

Website <http://www.kimigaku.ed.jp/ich/>

幼児児童生徒数 男子 505 名 女子 379 名 合計 884 名

幼児・児童・生徒の年齢 16 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「真心教育」を校訓として、ESD を「生徒一人ひとりが視野を広げる機会」と捉え、ESD の実践を通して、真の意味で国際社会において活躍できる力の育成を目標とした。具体的には、インターアクトクラブ及び英語コースに在籍する生徒が中心となって、①ボランティア活動、②地域との交流活動、③環境保護に関する学習を行った。

①ボランティア活動

英語コースに学校独自科目として、UNESCO(ユネスコ)を設定し、授業で学んだ知識を生かして、全校生徒を巻き込んだ、生徒を主体としたボランティア活動が広く行った。具体的には、エコキャップ回収活動、フィリピンの子供達に送るマーブルクレヨンプロジェクト、本校と同様にユネスコスクールの認証を受けている、併設校の清和大学附属八重原幼稚園の保護者の協力も受けて実施しているユニクロの『助けよう服のチカラプロジェクト』などがあげられる。また、市原市及び地域団体と協力したボランティア活動にも多く取り組み、ユニセフ街頭募金

や JR 五井駅構内での朝の挨拶運動への参加は、生徒一人ひとりが協働の意義を学ぶ貴重な経験となった。

②地域との交流活動

昨年度からは、『高校生が英語の先生』という新しいプロジェクトをスタートし、高い評価を受けている。英語コースの生徒が、指導案や教材を自分達で作成し、近隣の公立小学校を訪問して、英語の授業を実施している。日頃の英語学習の成果が存分に生かされるとともに、年齢の近い高校生との活動を中心とした英語学習を通じて、小学生の学習意欲が高まるだけでなく、地域交流という点でも注目されている。

③環境保護に関する学習

千葉大学 ESD 事業のコンソーシアム企業として参加する、株式会社常盤植物化学研究所の講演を聞いたことをきっかけにはじまった、インターアクトクラブの生徒による校内の「ハーブ園作り」も大きな広がりを見せている。文化祭では、採取したハーブを乾燥させ、小瓶に詰めてスパイスとして販売し、その売り上げの一部を地震で被災した熊本国府高等学校インターアクトクラブに支援金として送った。9 月には、常盤植物化学研究所を訪問して、ハーブの栽培方法や効用のほか、環境保護の必要性について改めて講師から学んだ。



① の写真（JR 五井駅での挨拶運動）

② の写真（高校生が英語の先生）



③ の写真（ハーブ園の見学）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

Messages from the Globe (Cengage Learning)
You, Me, and the World: Second Edition (金星堂) 等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

英語コースに独自科目 UNESCO（ユネスコ）を設定するほか、1年次及び3年次の総合学習の時間を活用して、外国人講師とのチームティーチングの形で、テキスト(Messages from the Globe (Cengage Learning))を用いて環境問題、平和・人権、生物多様性などについて、ディスカッションやプレゼンテーションによる生徒主体の学習を行った。次年度以降も、より多くの教職員、生徒がユネスコスクールの理念を理解し、自発的に活動に参加してもらえるように工夫と改善を目指している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

インターアクトクラブ及び英語コースに在籍する生徒が活動の中心となっているが、校内にユネスコスクール活動の様子をポスター掲示で紹介したり、全校朝礼において活動報告を行っている。また、ESD 推進校として地域との交流を活発に行う環境づくりに努めているが、今後もより多くの教職員及び生徒が活動に参加できるように工夫をしていく必要があると考えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

千葉県高等学校教育研究会 ESD 部会に所属し、千葉大学教育学部 ESD 事業（高大連携プログラム）に参加している。ESD 部会に加盟する他のユネスコスクールの活動状況について生徒と一緒に学ぶことで、本校におけるユネスコスクール活動の質の向上を目指している。現在、行われている活動をさらに発展させ、ESD 推進校として周辺地域の小中学校にも協働を呼びかける予定である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

英語コースの生徒が取り組む『高校生が英語の先生』という持続的なプロジェクトは、多くの教育関係者から高い評価を受けており、新聞紙上において大きく取り上げられた。また、ユニクロの『助けよう服のチカラプロジェクト』、『ユニセフ街頭募金』や JR 駅構内での『朝の挨拶運動への参加』なども紹介され、本校がユネスコスクールとして広く地域に認知されるきっかけとなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

千葉県高等学校教育研究会 ESD 部会に所属するほか、千葉大学教育学部 ESD 事業(高大連携プログラム)に参加した。千葉大学教育学部が中心となって組織されたコンソーシアムに参加する企業や団体との連携を行うことができた。また、オーストラリア・ベトナム・台湾・マレーシアの生徒との国際交流事業を展開するにあたって、千葉県や市原市の国際交流協会からの協力を得ることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

千葉県高等学校教育研究会 ESD 部会に所属するユネスコスクールと、成果発表会などを通じて交流を行った。また、担当者が2月に ACCU 主催で横浜で行われた『輝け未来!ユネスコリーダーシップ研修』に参加したことをきっかけに、県外のユネスコスクール加盟校との交流の機会が持てればと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

様々な ESD 活動を通じて経験を重ねることで、生徒一人ひとりが視野を広げ、成長したことを肌で感じている。また、地域の人々との交流と協働によって、新しい価値観と探究心が生まれ、学習意欲も高まったように思われる。これからも、より多くの人と触れ合い、共に学ぶことで、真の意味で国際社会において活躍できる人材を育成できるように指導方法の工夫と改善を行いたい。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

2010年にユネスコスクールの認証を受けて以来、国際ロータリークラブ支援のインターアクトクラブ及び英語コースの生徒を中心に、生徒とともに考え、実行する活動が行われているものの、学校全体による組織的な取り組みが行われているとは、まだまだ言えない状況である。ESD 活動の理念を教員一人ひとりが十分に理解し、その手法を学ぶことができるような環境を学内に整備し、他校での優れた事例を共有する機会を提供できるように努めたい。

平成 30 年度は、校内の「ハーブ園」の充実を計画している。これまでは、中庭の小さな花壇でのハーブ作りであったが、花壇を広げて、環境保護や生物多様性について全校生徒が学べるようなハーブ園を、常盤植物化学研究所の方の指導のもと、生徒と一緒に作りたいと考えている。